



ひろげよう! まちづくりの輪 ～手と手をつなぐ大家族リレー～



まちづくり協議会で汗を流す方の、まちづくりへの参画のきっかけ、想いなどを紹介します。

高取まち協 杉浦秀敏さんからバトンタッチ!

—○高浜まち協 井野 代司彦さん

(あんしんグループリーダー)



▲井野代司彦さん

◆どういうきっかけでまちづくりに関わるようになったのですか?

定年までは、地域の出来事はすべて家内に一任、まったく無知でした。地域に関わるようになったのは、定年後、当時、町内会長であった小学校以来の友人に誘われ、町内会の役員になったのが、きっかけでした。その後、町内会長を務め、まち協のあんしんG、高浜市の未来を描く(創る)市民会議にも参画し、本格的に地域との関わりが始まりました。活動する中で感じたことは、地域を支えるボランティアの方々の多さです。身の引き締まる思いでした。

◆東日本での震災以降、特に防災への関心が高まっていますが、どんなことに取り組んでいるのですか?

まち協では、子どもたちの意識も高めたいと、毎年開催している運動会に、今年は防災の要素を取り入れ、防災借り物リレーや防災〇×クイズを実施しました。また、要援護者対策として、名簿やマップの作成・更新も行っており、今年度からは、民生委員の皆さんとより強気に連携して、取り組んでいます。

市民会議では、電柱や公共施設に設置した標高サインの第2ステップとして、今後、コンビニや医療機関など、人の集まる場所に展開し、まち協や町内会と連携して、避難ルートの検証も行います。

◆今の防災意識の高さを、引き続き持ち続けることが大切です。

200年以上の歴史を誇る高浜市の伝統文化「おまん」と同じように、過去の災害も一つの文化と捉え、後世に伝えていく義務があると思っています。

防災、減災で重要なことは、まず家族が「災害想定を共有」し、少なくとも3日間生き残る現実的目標を「事前準備する」ことです!



▲AED講習会

◆市民の皆さんへ、まちづくりの第一歩を踏み出すメッセージをお願いします!

躊躇していると悩む性格のため、少し考えたら、意見を聞きながら、まずは行動していきます。失敗もしますが、達成できたときは、やりがいも感じます。

このまちを将来につなげていくためには、まずは、安全・安心への取組みが必要です。犯罪の起きにくい地域、災害に強いまちづくりには、人と人とのつながり、みんなが手と手を取り合っただけの活動が不可欠です。

皆さん!「まちづくり」に参画しませんか?皆さんの参画で、安全・安心なまちづくりに、また一歩近づきます!



▲青バトで地域の見守りに出発



▲杉浦嘉彦チーフ

高浜まち協特派員 杉浦嘉彦チーフから見た井野さん

あんしんグループリーダーを務めていらっしゃる井野さんは、とっても楽しい方です。会議で突然飛び出す川柳は、堅苦しくなりがちな話を一瞬にして楽しい雰囲気に変えてしまいます。

「まちづくり」の参加を呼びかけている団体はたくさんあります。まちづくりに興味があっても参加するのは不安だったり、迷っている方、ぜひ高浜まちづくり協議会の活動に参加して、みんなと一緒に、安全で安心して暮らしていける高浜にしていきましょう!

※まち協特派員…行政職員の所属部署に関係なく、チーフ1人(管理職)を含む4人の特派員により、小学校区ごとにチームを編成し、まちづくり協議会の会合への出席や活動のサポートなどを行います。